

中学部

(1) 中学部の教育目標

- ① 基本的な生活習慣を身につけ、自立をめざす生徒を育てる。
- ② 障害を理解し、明るく、積極的に行動する生徒を育てる。
- ③ ねばり強く、最後までやりぬく生徒を育てる。
- ④ 豊かな感受性を培い、友だちを大切にする生徒を育てる。
- ⑤ 他校や地域との交流を深め、地域社会に参加できる生徒を育てる。

(2) 教育課程の編成方針

- ① 本校の教育目標及び本年度の努力点を踏まえ、教育課程を編成する。
- ② 生徒個々の実態を十分に把握し、健康安全面に配慮しながら、特性等に応じて弾力的に教育課程を編成する。
- ③ ICF（国際生活機能分類）の理念に基づき、合理的配慮ができるよう「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、指導の充実を図る。
- ③ 近隣の中学校及び居住地校、地域社会の人々と交流する機会を積極的に設けることにより、経験を広め、社会性を養い、望ましい人間関係を育てるよう配慮する。
- ④ 病弱の生徒についての各教科、各領域の指導の重点、指導目標についてはⅠ類型、Ⅱ類型を踏まえ、実施する。
- ⑤ 病弱の生徒については病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重にならないように十分配慮する。
- ⑥ Ⅰ類型の各教科の指導の重点については、中学校学習指導要領に準ずる。
- ⑦ 生徒の障害の実態を把握して、ICT機器等の活用を図り、指導の効果を高める。

(3) 各教科、各領域の指導の重点

① 各教科

ア 国語

- (ア) 話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの基礎的・基本的な指導事項を系統的におさえ、その定着を図る。
- (イ) 日常生活に必要な国語についての理解を深め、伝え合う力を育てる。
- (ウ) 生徒の発達段階に応じて、読書に親しむ態度を培う。

イ 社会

- (ア) 生徒の実態や興味・関心、進路等に応じて、身近な地域の環境や産業・移り変わりの様子について理解しようとする態度や、社会的な見方・考え方を育てる。
- (イ) 生徒の実態や興味・関心、進路等に応じて、身近な地域における社会的事項について理解しようとする態度を養い、自立と社会参加に必要な基本的能力を育てる。

ウ 数学

- (ア) 数量・図形について、基本的な知識と技能を身につけ、進んで生活に活かす能力と態度を育てる。
- (イ) 日常生活に必要な基礎的な数量や図形に関する理解を深め、数学に対する興味・関心を高める。

エ 理科

- (ア) 日常生活に関係の深い自然の仕組みや働きなどに関する初歩的な事柄についての理解を図る。
- (イ) 科学的な見方や考え方を養うとともに、自然を大切にする態度を育てる。

オ 音楽

- (ア) 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味関心を持ち、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。
- (イ) 音楽を通して、情緒の安定を図り、豊かな情操を育てる。

カ 美術

- (ア) 自発的な造形活動を通して表現する喜びを味わい、関心・意欲を育てる。
- (イ) 生徒の作品や美術作品等を鑑賞し、それらの良さや美しさに親しみ、感性と豊かな情操を養う。

キ 保健体育

- (ア) 適切な運動の経験や個々の実態に即応した身体の動きを通して、運動の楽しさや喜びを味わい、体力の維持・向上を図る。
- (イ) 健康・安全について学び、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

ク 職業・家庭

個々の発達段階に合わせ、職業生活や家庭生活に必要な基礎的・基本的知識と技術の習得を通して家庭生活に関心を持ち、実践的な態度を育てる。

ケ 外国語（英語）

- (ア) 英語を通して、外国の生活や習慣などに興味・関心を持つ態度を養う。
- (イ) 英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」に慣れ、初歩的な表現ができるようにする。

② 道徳科

- ア 自己の障害を理解し、生きることの大切さを知り、自らやり抜く意思を育てる。
- イ 集団生活を通して、感謝の気持ちや、他人への思いやり等を育てるとともに、社会性や自立心を養う。

③ 特別活動

- ア 学級活動や学校行事及び生徒会等の諸活動を通して、経験を広め、社会性を養い、豊かな人間性を育む。
- イ 生徒の興味・関心を広げ、楽しく充実した学校生活を送る態度を養う。

④ 自立活動

- ア 障害による学習上、または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度を養い、心身の調和的発達の基盤を培う。
- イ 生徒の身体の動きや意思の表出の状態に応じて、適切な支援技術や情報機器等の補助的手段を活用し、コミュニケーション能力を高め豊かな生活を営む力を育てる。
- ウ 個々の障害の状態や発達段階を的確に把握し、他専門機関と連携を図り、系統的に指導を行い自立・社会参加を目指す。

⑤ 総合的な学習の時間

- ア 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。

- イ 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
- ウ 交流相手校の生徒との会話や活動を通して、人と関わる力や主体性を養う。
- エ 自然体験など生徒が直接体験したり、地域や身近な環境問題を通して、社会との関わる力を育成する。

⑥ 各教科等を合わせた指導

ア 日常生活の指導

学校生活を通して、健康の保持増進を図り、日常生活における基本的動作、生活習慣を育成し、自主的に取り組む態度を育てる。

イ 生活単元学習

生徒の興味・関心、発達段階に応じ、生活の中から題材を設定し、諸活動を通して、生活に必要な基本的な知識、技能、態度を育成する。

ウ 作業学習

- (ア) 作業学習を通して、基礎的な知識・技能を身につけ、生産する喜びを味わう。
- (イ) 作業学習を通して、基礎的な知識や技能を身につけ、就労への意識を高める。
- (ウ) 道具類の安全な使用と管理について、知識を高める。

(4) 生徒指導の重点

基本的な生活習慣を身につけると共に、集団の一員としての自覚を図る。

(5) 健康・安全教育の重点

- ① 家庭や関係諸機関との連携をとり、疾病、障害の程度等を考慮した集団、個別の指導の充実を図る。
- ② 学校・家庭・校外において常に安全な生活を営むために必要な知識・習慣・態度を身につける。
- ③ 各教科・領域との連携をとりながら、生徒の実態に応じた性教育を行う。

(6) キャリア教育の重点

- ① 自己の能力や適性等について知り、進路への関心を高め、進路を選択する意欲を育てる。
- ② 基本的な生活習慣、基礎学力、基礎体力を身につけるとともに、社会性の育成を図る。
- ③ 保護者や関係機関等の連携を密にすることによってより適切な進路を見出していく。

(7) 交流及び共同学習の重点

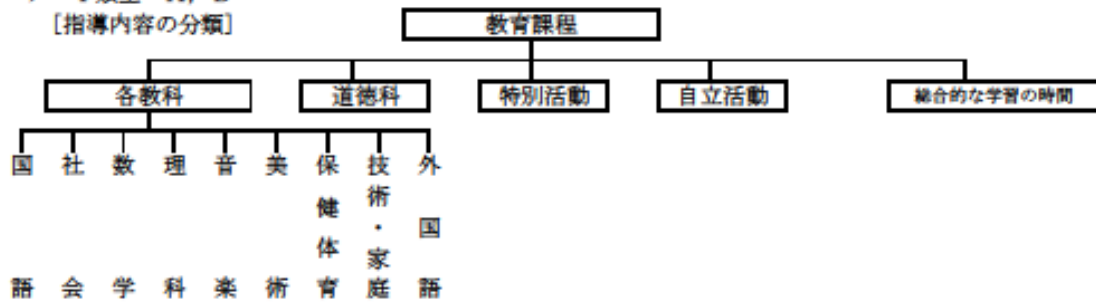
- ① 近隣校や居住地校、その他の学校と継続的に交流することにより、経験を広め好ましい人間関係の向上や社会性を育てる。
- ② 居住地校交流や地域での活動への参加を推進し、相互理解を深める。

(8) 指導形態

①教育課程の構造図

ア I類型-A, B

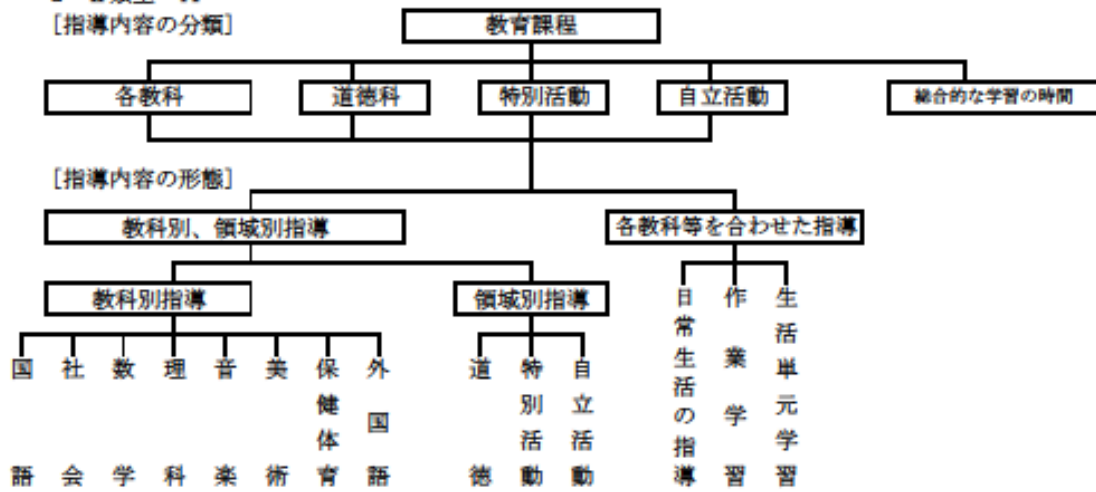
[指導内容の分類]



イ II類型

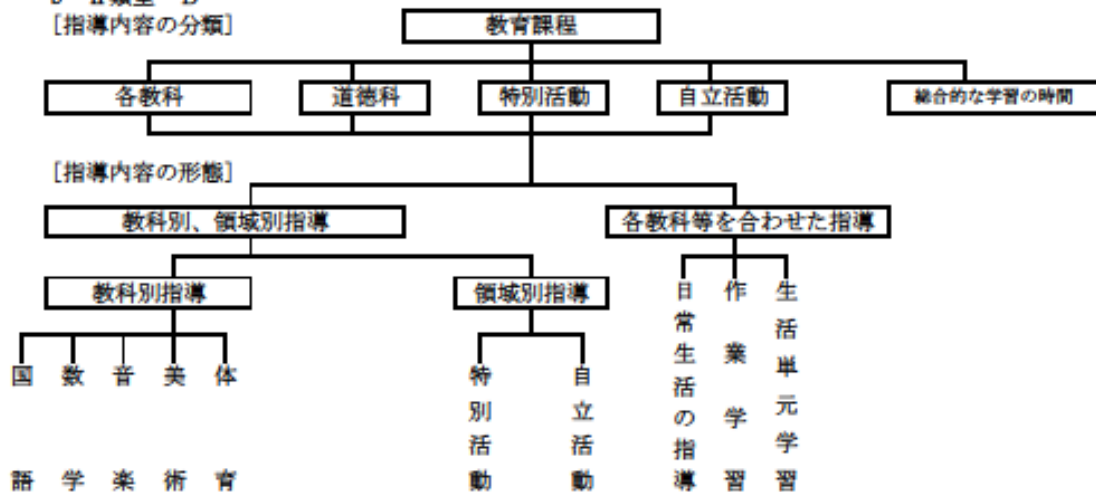
a II類型-A

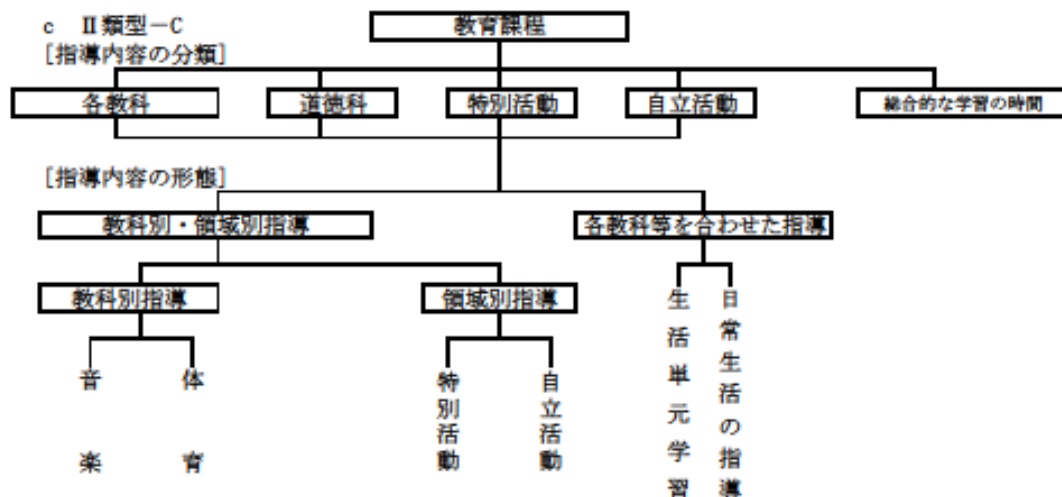
[指導内容の分類]



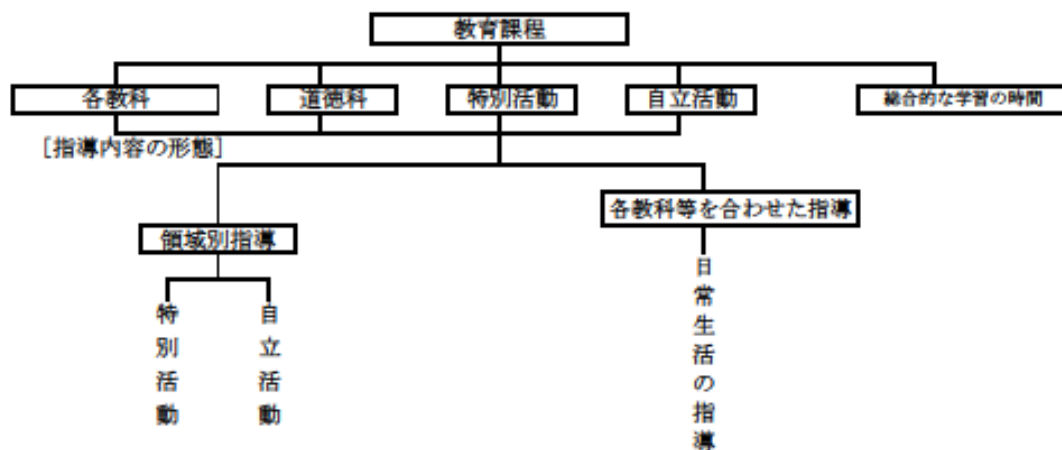
b II類型-B

[指導内容の分類]



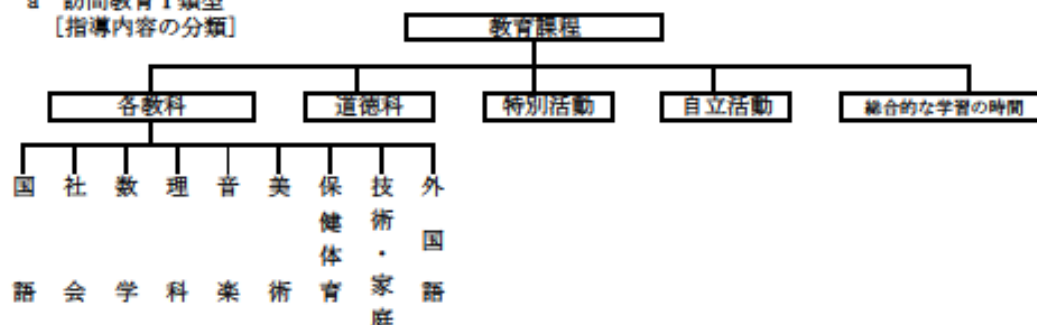


ウ III類型
[指導内容の分類]



エ 訪問教育 ※以下の指導形態は、訪問及びスクーリングにおいて実施するものとする。

a 訪問教育I類型
[指導内容の分類]

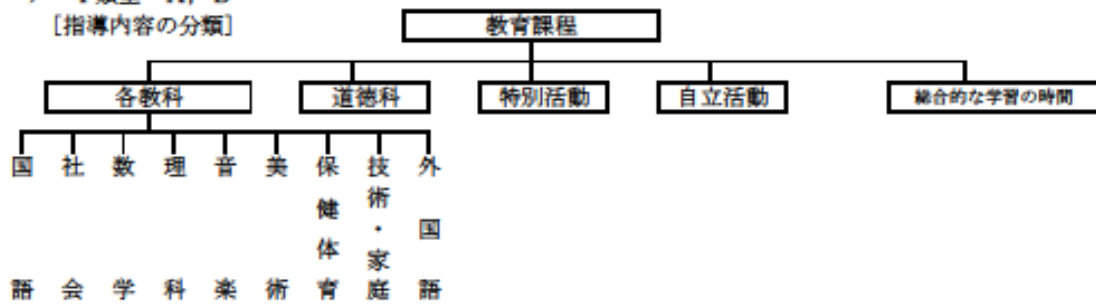


(8) 指導形態

①教育課程の構造図

ア I類型-A, B

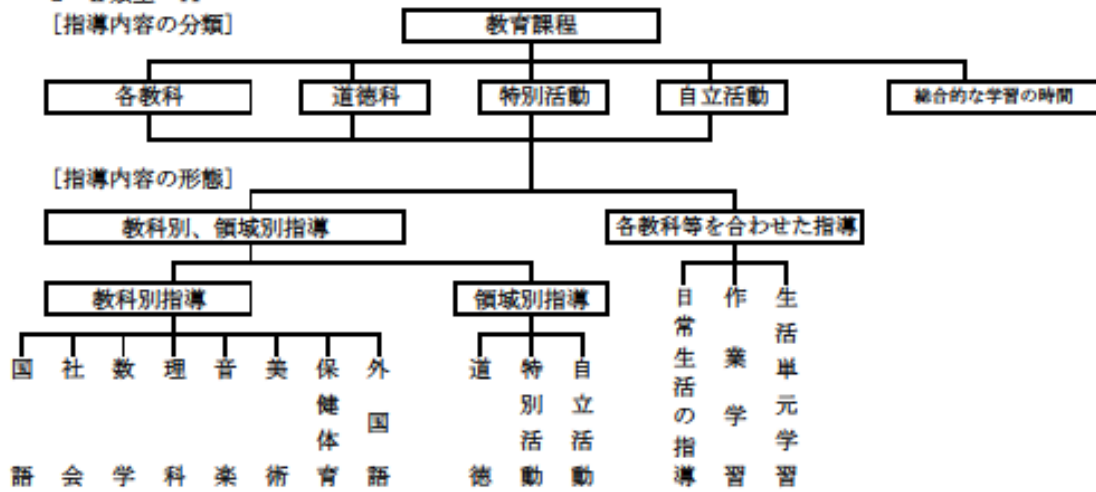
[指導内容の分類]



イ II類型

a II類型-A

[指導内容の分類]



b II類型-B

[指導内容の分類]

